

論文審査の結果の要旨

氏名：西 本 和 月

博士の専攻分野の名称：博士（心理学）

論文題名：室内照明のパターンが空間評価に与える影響

審査委員：（主 査） 教授 羽 生 和 紀

（副 査） 教授 岡 隆 教授 内 藤 佳 津 雄

本論文は、屋内環境において、照明によって作り出された光のパターンが空間における心理的機能に与える影響を検討したものである。

本論文の研究は、「他者の存在が確認できるが、自分自身は他者から隠れている状況において肯定的な心理的反応が起こる」という、**prospect-refuge**（見晴らし—隠れ家）理論が提唱する、人間が生得的に持つと考えられている心理的機能を立脚点にしている。そして、心理的反応として特に对人的な評価に焦点を当てている。光のパターンは、自分自身の位置と他者の位置を照らす照明の点灯と消灯により操作をしている。

本論文ではまず、コンピュータグラフィックスと縮尺模型を用いた複数のシミュレーション実験を行い、光のパターンが **prospect-refuge** 理論が想定する反応を生じさせることを確認したのちに、独立変数として操作すべき重要な物理的要因と仮説の検証に妥当な従属変数の確認・選択を行った。

つぎに、シミュレーション実験で得られた結果に基づき、実験室で実際のスケールにおける複数の実験を行った。この一連の実験室での実験では、着席した実験参加者と、同様に着席した 1) 一人の他者がいる、2) 二人の他者がいる、3)（実験参加者のみで）他者が不在の各場面を順番に用意した。そして、それぞれの場面において、自分自身の位置と他者の位置の照明の点灯・消灯を操作した条件を作成し、環境評価と感情評価を行っている。さらに前 2 つの他者がいる場面では、他者との会話コミュニケーションがある条件とない条件を設けている。結果として、他者とのコミュニケーションがない条件では **prospect-refuge** 理論が仮定する反応が得られたが、他者とのコミュニケーションがある条件では、**prospect-refuge** 理論と一致しない反応が得られた。このことから、コミュニケーションをとっている状況では、他者は緊張関係にある相手ではなく、交流の促進を望む相手と見なされるという、他者の役割の変化が結果に影響した可能性が示唆された。また、他者が不在の条件では、コミュニケーションがない他者がいる状況と類似の反応が得られた。これはこの反応の自動性を示唆するものであり、仮説の生得性を支持するものと考えられた。

最後に、自分自身への照明の照射位置を操作した実験を行ったところ、照射位置は **prospect** の性質の知覚に影響を与えたが、**refuge** の性質の知覚には影響を与えなかった。

以上のように本論文はこれまで建築・デザインの領域で主に経験則から検討されてきた、照明が生み出す光環境の評価を対象にして、必要な系統的な実験を積み重ねながら、実証的に研究を行ったものである。そして、**prospect-refuge** 理論という、これまで物理的な環境の構造に対する反応の説明に用いられてきた理論を、照明によって作られた光環境に適用し、その有効性と妥当性の範囲を明らかにしている。とくに同席する他者との会話コミュニケーションがある場合には、**prospect-refuge** の反応よりも、他者との交流や共感性を促進するために、自分自身と他者が等質となる光環境を高く評価するようになるという知見はこれまで報告されていないものであり、価値が高い。

こうした成果は室内照明環境、および広く光環境に関する環境心理学的研究の発展に資するものであり、また建築・デザインにおける実務への貢献も期待されるものであることから、高く評価できる。このことは関連領域における学識の深さと研究遂行能力の高さを示すものであり、申請者の専門的な職務に従事するための十分な資格を示すものといえる。

よって本論文は、博士（心理学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成26年1月30日